

# Hondaの 安全運転普及活動 報告書

# 2012

**HONDA**  
The Power of Dreams



## Safety for Everyone

すべての人の安全をめざして



本田技研工業株式会社 安全運転普及本部  
〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1  
TEL:03-5412-1736 FAX:03-5412-1737



1 青少年編

# 交通社会の一員として 良識あるライダーを 育成する

Honda安全運転普及本部(以下、安運本部)が設立された1970年当時、若者がバイクやクルマに乗って深夜暴走行為を繰り返す、いわゆる暴走族が社会問題に発展し、高校生の二輪車事故も増えていきました。その様な中、実践的かつ地域を巻き込んだ新しい交通安全教育の試みが芽生えた一方で、その後、多くの高校を選んだのは生徒のバイク利用を禁止する、いわゆる「バイクの3ない運動(バイクの免許を取らせない・運転させない・買わせない)」でした。

「もっとスピードを上げる!もっと車間をつめろ!」縦一列に進んでくる15台のバイクに向かって、ハンドマイクから小河原将司所長(鈴鹿安全運転講習所:現、鈴鹿サーキット交通教育センター)の激しい声が響きます。

バイクに乗るのは山形県の高校教師と山形県警の警察官。彼らは全て、山形県高等学校安全運転研究会(YHS)の会員です。この会は山形県の高等学校長協会、教育庁、警察本部交通部、教師からなり、顧問として山形ホンダ会、安運本部山形支部が参加し、1971年2月に設立されました。設立への強い動機は、前年夏休みに山形県内の二輪事故の24%が高校生という状況になったことからです。

「しっかりとした運転技術や正しい知識を持つ指導者の説明に生徒は心を開いて聞いてくれます。厳しい講習にもついてきてくれます。ハードな体験でしたが、生徒たちの顔を思い浮かべて耐え抜きました」(羽黒工業高校 秋元順雄)

3泊4日の指導者養成の合宿研修で自信を深めた秋元先生は、庄内から雪が消える頃、コースを校庭に作り、生徒たちの前で鍛えた技を披露して、喝采を浴びました。YHSの組織的な活動は同年4月の指導者養成講習会で始まり、高校教師91名が参加、安運本部派遣のインストラクターが講習を担当しました。

夏休みが終わった同年9月、県高校長協会臨時総会が開かれ、「高校生の交通安全に関する決議」を採択、交通安全教育の徹底を宣言します。当時としては画期的な出来事でした。安全教育を徹底する上で一番難しいのは、教える中身です。この頃の交通安全教育といえば、交通法規中心、精神論

的な講話が一般的ななか、安全な乗り方など実技を含む実践的な指導へと転換されていくことになりました。このように教育、警察、メーカーが連携し、三位一体となって高校生の安全運転教育を進めたことは山形県が初めてであり、各地の教育・警察関係に反響を呼びました。

安運本部が翌1972年から始める〈全国高等学校二輪車安全運転指導者研修会〉は、この経験を全国に広げるためのもので、二輪の安全運転指導を担当する高校の先生や警察官など多くの方が鈴鹿に集まり、1993年まで行いました。そして現在では形を変え、業界活動として一般社団法人 日本交通安全教育普及協会に委託され、今もなお継続されています。

安運本部設立初期の社会が一体となって高校生を事故から守るこの経験は当事、安運本部 事務局長の稲吉 博の心に強く響くものがありました。「若い命を守るためには、学校に職場に地域にたくさんの指導者をつくること、それも短期間に!」

早速、全国で交通安全を指導する普及指導員を募集する活動が始まり、1,820人の応募が一般の人からありました。鈴鹿で教育を受けた秋元先生たちも普及指導員として認定され、講習会を県内全域に展開していきます。

その他、ヘルメットの着用を促す〈ヘルメットでいこう〉キャンペーンや、安全知識を満載した豆本の配布なども実施。こうした一連の活動は、高校生年代の多感な若者たちに感動を与えました。宮崎県の高校2年生の手紙を一部紹介します。「僕は今、CB350エクスポートに乗っています。今まで公道は我がもの顔に常に80~120km位だしていました。この読みやすい本を読んでから、人命の尊さという自分だけが楽しむばかりじゃいけない。社会のルールを守ってこそ、人にも迷惑をかけない、また自分を守る道にもつながることがわかりました。事故を起こす前にこのような本を送って下さったことに大変感謝しています。」

1971年、創業者の本田 宗一郎は、全社を挙げて安全運転普及に取り組むHondaの姿勢を社会に伝える新聞の全面広告の中で「機械文明が際限もなく進歩を続ける現代こそ、使う人をつくる人との間に暖かい心の触れあう、真のコミュニケーションが大切なのだ」と書いています。高校2年生の手紙には、売った後までのサポートへの感謝の思いが溢れています。

1974年8月から安運本部は「若者からバイクを取り上げる

のではなく、交通社会への適応を早めるためにもバイクを通じた人間教育が必要」であることをテーマに「二輪車安全教育シンポジウム」を北は札幌から南は宮崎まで23カ所で開催しました。

福岡でメインスピーカーを務めた千葉康則教授(法政大学・行動心理学)は、今でも新鮮な感銘深い言葉を残しています。「青少年の暴走問題が教育問題と思うなら、今すぐしなければならぬことがある。彼らが誰からも見放されていることを考えれば、あらゆる手段を工夫して彼らと接触すべきだ」Hondaの基本姿勢、「使う人とつくる人との間の暖かい心の触れあい」の具体的なあり方を指摘しています。

教育の姿勢についても、「この問題(青少年の交通安全)は若者自身に考えてもらわなければならない。考えさせる教育は、与える教育よりもはるかに困難だが、得られる効果は大きい」と教えてくれています。

1970年代後半頃から始まった高校生に対する3ない運動は、2012年8月、この運動の推進者となった全国高等学校PTA連合会の第62回大会で宣言文がなくなり、今後は自転車や歩行を含めたマナーアップ運動に転換すると発表されました。3ない運動宣言から30年目の終結です。

安運本部は、高校生自身が主体性を持って自ら考え、事故を起こさないための安全意識向上と人に迷惑をかけない良識ある交通社会人の育成をねらいに新しい教育プログラムを開発、今年から行政機関や教育機関と連携し、まず熊本県内の16校を対象に教育支援活動をスタートさせました。「与える教育より考えさせる教育、交通教育は人間教育」の精神は40年過ぎた今も生きています。



安運本部が発行した交通安全情報紙「Safety Japan(現Sj)」。1971年創刊号でとりあげているのは、山形県の高校生向け安全運転教育の取り組み



2012年度から熊本県内16の高校で始まった高校生交通安全教育



## 自らクルマを操り、自由に移動できる喜びを届けたい

安全運転の普及を目的に、1972年から全国で本格的に設立が始まったバイクやクルマの利用者を対象とした組織、セーフティクラブ<sup>※</sup>。1978年、熊本で身体が不自由な方が中心となって結成された「セーフティクラブ肥後（以下、SC肥後）」は、その後の安運本部の活動に大きな影響を与えました。

※セーフティクラブとは  
Hondaが1971年、新聞広告で宣言した安全運転普及のための活動の一つ「安全ドライビングクラブの結成促進と支援」の一環として、1972年、安運本部内にセーフティクラブの事務局を設置。これにより全国のドライバー、ライダーに呼びかけ、安全運転の普及を目的とした会員組織として、本格的にHondaのセーフティクラブが各地で誕生しました。その最大の特徴は、安全運転の実現に向けHondaの顧客のみならず、すべての二輪・四輪の運転者を対象としていることでした。

「フランツシステム」とは、左足元のペダルを自転車のように漕ぎ、ハンドル操作を行って運転できる装置。一人ひとりの身体特徴にあわせて調整が可能だ



セーフティクラブ肥後主催の法改正達成祝賀会でメンバーから祝福を受ける。左から刀川、松本、典子さん、吉村、車両開発担当の増井英夫



SC肥後は、障がいを持った方自らが運転を楽しむ仲間と集まり、クルマを通して障がい者への理解と安全運転を広く訴えようと発足したセーフティクラブです。発起人の一人である刀川（たちかわ）哲也は、地元販売会社であるホンダ肥後（現、Honda Cars熊本）の営業スタッフでした。

1980年、刀川はサリドマイドで両腕に障がいを持つ辻典子（現姓、白井）さんが熊本市役所の福祉課に配属されたニュースを知りました。

「この人にも、クルマを運転させてあげたい」市役所に出かけることが多い刀川は、福祉課に立ち寄るたびに声をかけ、SC肥後への入会を勧めました。

SC肥後に入会した典子さんは、足が不自由な人たちが、手動式のアクセルとブレーキを装備したクルマで運転していることを知ります。自立に向かって精一杯生きている人たちと接し、クルマが足の不自由な人の移動手段として大きな役割を果たしていることを理解しました。

折しも、当時『旅立とう、いま・こずえさん20才の青春』という特集がテレビ放映され、西ドイツ（当時）のサリドマイド障がい者が、足だけで運転する様子が紹介されました。それを観たSC肥後の会員たちに、一つの目標が生まれました。典子さんに運転免許を取得させることです。

「足で運転できるクルマがあると聞き、最初は驚きました。好奇心が旺盛でしたので、免許が取れるものなら取りたいという気持ちは強くありました」（典子さん）

山陽自動車学校においてシビックを運転する典子さん。助手席にはフランツ氏が同乗。現場には多くのマスコミが取材に訪れた



「ぜひお願いしたい。クルマに乗れば、もっと自由に社会生活が広がります」

年が明けた1981年、刀川は安運本部の吉村征之を訪ねました。典子さんの免許取得を実現するためには、まず、運転できるクルマが必要です。

刀川の依頼について、吉村は考えを巡らせました。なぜなら、1981年当時の道路交通法では、両上肢をひじ関節以上失った人には免許取得が認められていなかったのです。吉村は同僚である広報部の松本健夫に相談しました。足だけの運転装置は可能でも、法律を変えなければ公道は走れない。二人は副社長の杉浦英男が主催したミーティングに出席し、今までの経過と企画内容を説明しました。慎重ではあったが、2人の考えに理解を示した杉浦は「力になってあげなさい」と返答しました。

二人は早速、運転補助システムの調査と開発費用の捻出のために社内を奔走し、プロジェクトチームを立ち上げました。

1981年2月、チームはデータの収集と調査に取りかかり、身体が不自由な人が運転する方法について、膨大な資料にあたりました。そして、医学的見知から人間の骨格や関節の動きに最適なフランツシステムに候補を絞り込み、チームは早速、技術者を西ドイツに派遣。左足元のペダルを自転車のように漕いでハンドル操作を行うフランツシステムをHonda車に装着し、典子さんの運転を実現させようと考えました。

異例のスピードで進んだ開発が実を結び、1981年5月、埼玉県にある交通教育センターレインボー埼玉に試作1号車が運び込まれ、走行練習が行われました。

「あっ、走った！」

日本で初めてフランツシステムを搭載したクルマを運転した典子さんは、当時の思いをこう語っています。

「クルマがあればどこへでも行けるし、自由になれる。今度のことは私だけの問題ではないと思います。同じ障がいを持つ大勢の人のために頑張らなければと感じています」

夢がかなうその日に向け、熊本に戻った典子さんは先生役を買って出た刀川とともに、仕事が終わると毎日のように運転の練習を重ねました。

1981年6月、梅雨空の下、吉村は試作1号車をトレーラーに積み、霞ヶ関の官庁街を回りました。認可が下りず公道を走行できないため、車両を運び込んで説明するしかありませんでした。

このクルマの安全性や操作性を理解し、どうか法改正を考えてほしい。吉村は、身体に障がいのある方が足だけで運転して

も、健常者と変わらない状態の走行ができることをアピールするとともに、典子さんもこのクルマも特殊ではなく『差ではなく違いがあるだけである』ということ強く訴えました。

そんなある日、システムの開発者であるエーベルハルト・フランツ氏が来日するという吉報が吉村と松本に届きました。

8月下旬、行政諸官庁、身体障がい者団体の目の前で、自身も両上肢障がいを持つフランツ氏が見事な運転技術を披露。二人とフランツ氏は東京、京都、熊本を回ってPRに努めました。

一連の運動の成果によって世間の注目が集まり、11月には国会において「足で運転する車について」の質疑が行われました。同月の下旬、道路交通法施行令一部改正が発表され、1982年には、ついに道路交通法が改正されました。関係者の想いが実を結び、両手が不自由な人への運転免許証の交付が決定したのです。

両上肢障害で免許取得をめざすのは、典子さんが日本初。教習所ではフランツシステムを搭載したクルマの操作を熟知している先生がいなく、運転を学ぶことが難しかったため、刀川と典子さんは二人三脚で試験に臨み、1982年7月、筆記・実技とも1回で合格。はれて免許を取得しました。これをきっかけに両上肢障がいを持つ人の免許取得の道が拓かれたのです。

こうした取り組みを背景に、Hondaは身体が不自由な方に車両運転時の安全性確保に向けた教育機会を提供し、交通事故削減をめざしたいと考えています。



身体に障がいのある方や、移送サービス者向けの安全運転教育プログラムの開発が進められている

2012年には、高次脳機能障害<sup>※</sup>などにより、リハビリ加療中で運転復帰を目指す方々の運転に対する評価や訓練をサポートするソフトを開発。Hondaが長年培って来たドライビングシミュレーターの技術が活用されています。

また、現在、身体が不自由な方の自操による安全運転や、障がいのある方を搬送する介護車のドライバーをサポートする教育プログラムの開発も進めています。

身体に障がいがあっても、自らがクルマを操り、自由に移動できる喜びを味わえることを、安全運転の想いととも多くの人に届けたい。それが私たちの願いです。

※主に脳の損傷によって起こされる、脳梗塞など脳血管障害のこと。

## ごあいさつ

本田技研工業株式会社 取締役専務執行役員  
安全運転普及本部本部長

## 大山 龍寛



日頃からHondaの安全運転普及活動に多大なるご理解、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。お陰様で本年も様々な分野において安全運転普及活動を展開することができました。この場をお借りし、改めまして御礼を申し上げます。

昨年中の交通事故死者数は11年連続での減少となる4612人、本年は昨年をさらに上回るペースで着実に減少しております。これは交通安全に関わる官民はもとより、交通社会に参加する一人ひとりの努力の成果であり大変喜ばしいことと思います。

一方で、昨年よりスタートした第9次交通安全基本5カ年計画で掲げる「平成27年までに24時間死者3000人以下、死傷者数70万人以下にする」というチャレンジングな目標を達成するためには、これまでも増して「人」の意識と行動変容、「車両」の安全技術の進化と普及がより一層重要になってくると考えています。

Hondaは「環境」と「安全」を最重要課題ととらえ企業活動に取り組んでいます。CO<sub>2</sub>の大幅低減に向けた取り組みや、「車両」の安全技術をさらに進化させ、いち早くクルマやバイクに搭載し、お客様に提供することはもちろん、クルマやバイクに乗っている人のみならず、歩行者、自転車利用者など交通社会に参加するすべての人の安全を追求し、共存安全による「事故ゼロのモビリティ社会」の実現をめざしています。その実現のために、安全技術の「テクノロジー」、安全情報の「コミュニケーション」、交通安全教育領域の「ヒト」の三本柱で展開を行っています。

「テクノロジー」では、「ぶつからないクルマをより多くのドライバーに」をコンセプトに追突や歩行者衝突回避の可能性を高めたプリクラッシュセーフティ技術

や、衝突リスクに近づかないようにクルマをさらに知能化して他車の動きを自動で予測・判断する運転誘導支援、さらには隠れた危険などにも対応するため車車間、路車間通信を活用したITS技術などの研究・開発にも積極的に取り組んでいます。また、四輪・二輪メーカーである強みを活かし、クルマ側がバイクを守る技術の研究・開発にも取り組んでいます。

「コミュニケーション」では、昨年の中東大震災直後に、カーナビのプローブ情報が通行できる道路をいち早く社会に提供し、救援作業に貢献したように、「人・クルマ・世界がつながる機能」で安全を進化させ、地域の人々と一緒に作り上げる交通安全のコミュニケーションの輪を拡げていきたいと考えています。

「ヒト」へは、ここ数年強力に進めてきました地域に根ざした交通安全教育を、Hondaの二輪・四輪販売会社のスタッフや交通教育センターはもちろん、各地の交通指導員や協力会社のインストラクター、教習所の皆様など多くの人々と連携し、交通安全思想の普及に向けた活動を継続して参ります。また、シミュレーション技術を活用したツールや身体に障がいのある方の移動を支援する教育プログラムの開発・提供など、先進性・独自性のある取り組みにもチャレンジして参ります。

今後もHondaは、すべての交通参加者が安全で事故に遭わない社会をめざし、その実現に向けて、「テクノロジー」、「コミュニケーション」、「ヒト」の3つの領域でそれぞれをさらに高めると同時に互いに協調させながら、取り組みを一層強化して参ります。

最後に、皆様の益々のご健勝とご発展をお祈りするとともに、Hondaへの変わらぬご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

## Hondaの安全に対する考え方

# Safety for Everyone

## すべての人の安全をめざして

クルマやバイクに乗っている人だけでなく、道を使うだれもが安全でいられる「事故に遭わない社会」をつくりたい。Hondaは、その実現に向け、安全に関わる「テクノロジー（ハード）」の開発はもちろん、安全の知識や運転技術をたくさんの「ヒト（ソフト）」に伝え、さらには、安全情報を伝えあう「コミュニケーション」を推進する活動に力を尽くしていきます。

その「ヒト（ソフト）」の領域において、子どもから高齢者まで各年代に応じた交通安全啓発活動を地域社会と一体となって進めることが必要と考え、積極的に取り組んでいます。



## 安全運転普及本部の活動

Hondaの安全運転普及活動は、人に焦点を当てた「人から人への手渡しの安全」と、危険を安全に体験する「参加体験型の実践教育」を基本に、活動の三本柱として、人づくり、場づくり、ソフトウェアの開発に取り組んでいます。



### 交通安全を伝える指導者を養成しています。

効果的に交通安全教育を行い、活動を広げるためには、それを実践する指導者が必要不可欠です。そのため、Hondaは手渡しの安全の担い手である指導者の養成に積極的に取り組んでいます。また、活動に賛同して下さる企業・地域・自動車教習所などの方々へ、要望に応じて指導ノウハウを提供するなど、指導者養成を支援しています。

### 交通安全を考え、学ぶための「場」と「機会」を提供しています。

交通ルールやマナー、安全運転について日常的に考え、学ぶための「場」と「機会」をお客様や地域の方々へ提供しています。例えば、親子で学べる交通安全教室や危険を安全に体験していただく参加体験型のスクール、受講者同士の話し合いの中から自分の交通行動を振り返る講習など、様々な学びの「場」と「機会」を創出しています。

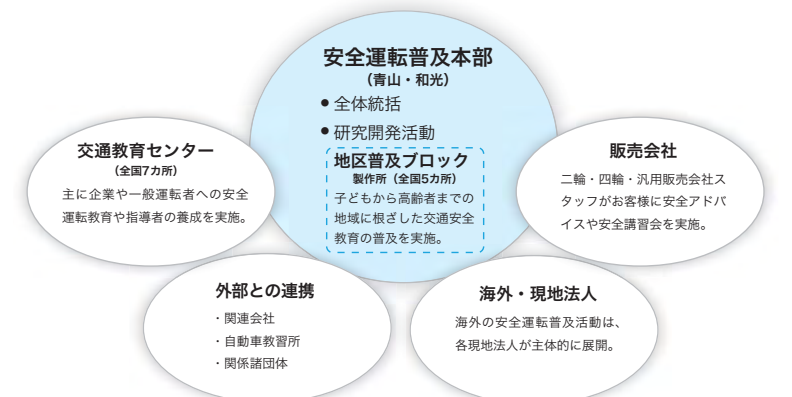
### 学習効果を高めるための「教育プログラムや教育機器」を開発しています。

安全教育の現場でご活用いただける教育プログラムや教育機器等、「ソフトウェアの開発」も安全運転普及本部の重要な活動の一つです。本人の気づきを促す各種交通安全教育プログラムや、危険を安全に体験していただける二輪・四輪・自転車の各種シミュレーターなど教育機器の開発に力を入れています。

## 安全運転普及本部の活動体制

### できるだけ多くの人に安全教育に参加してほしいから、活動の場を広げています。

安全運転普及本部を中心に、各年代に応じたきめ細やかな安全運転普及活動が行えるよう、活動体制を整えています。それぞれの活動拠点に、役割に応じた専任のインストラクターやスタッフが配置されており、皆様に交通安全教育を提供したり、関係諸団体と連携した交通安全活動に取り組んでいます。



# 交通安全教育のさらなる高みをめざして

安全運転普及本部 事務局長 千葉 英雄

## 2012年の重点テーマ

Hondaが取り組む安全運転普及活動は、今年で43年目を迎えました。昨年からの第9次交通安全基本計画では道路交通安全対策として8つの具体的な対策を掲げておりますが、なかでも「交通安全思想の普及徹底」「安全運転の確保」「研究開発および調査研究の充実」においては、私たちが長年継続してきた「人づくり」「場づくり」「ソフトウェア開発」の三本柱と通じるものであり、まさに関係行政と民間との連携による重層的な取り組みとして展開しているところです。

この三本柱に基づき、今年も「地域に根ざした普及活動の定着化」と「社会に求められるノウハウの創出と発信」を重点テーマとして掲げ、活動を展開して参りました。

### 1 地域に根ざした普及活動の定着化

#### 活動開始から4年で44都道府県に定着

熊本を皮切りに、栃木、埼玉、浜松、鈴鹿の各製作所に設置した「地区普及ブロック」による地域に根ざした普及活動は、活動開始から5年目を迎え、地域が主体となった交通安全普及活動を行う指導者延べ1万2000人を養成するとともに、その指導者によってHondaのノウハウを活用しながら、今年だけで全国341市町村、約63万人に安全をお伝えしました。

指導者の皆様に幼児・小学生向けの「あやとりシリーズ」、高齢者向けの「シルバー楽集大学」「交通安全ビデオ講座※」など、Hondaが開発した交通安全教育プログラムや教材を活用していただくことで、多くの方々に交通安全を学ぶ機会を提供できました。活動は着実に全国へ広がりをみせ、2012年度末までに動員数約81万人、東日本大震災の影響で活動を一時中断した東北3県を除く、44都道府県での活動の定着が見込まれています。一人でも多くの大切な命を守りたいという共通する信念を持ち、多くの方々のご理解とご賛同を得て展開できましたこと、深く御礼を申し上げますとともに、今後も新たな教育ツールの提供や各地域に対応したノウハウ提供など、地域指導者との連携を維持しながら、継続して参ります。

Honda関連企業の従業員で構成される「Hondaパートナーシップ・インストラクター制度」では、37社94名のインストラクターが積極的な普及活動を展開し、今年も20社28名の第三期インストラクターが加わりました。モビリティ社会の一員として、従業員への安全教育や、各社周辺地域における参加体験型の親子交通安全教室を通じて交通安全の普及に取り組んでいます。

また、全国41校の教習所と連携した交通安全普及活動では、二輪車安全運転実技講習会や、自転車シミュレーターを活用した中学生・高校生に向けた自転車教室、各種交通安全イベントを開催し、地域から期待される活動として定着して参りました。

Honda内では全国の製作所における「工場インストラクター制度」を再構築し、製作所内外の交通安全に向けた取り組みが活発化しています。鈴鹿・埼玉ではこの1年で新規インストラクターの養成が進み、従業員に対する指導を行いながら、社内での安全意識向上を図っています。

こうした背景から、今年9月に「セーフティジャパンインストラクター競技大会」を4年ぶりに開催いたしました。同大会を通じて、習得したことを各地域に戻って取り組むことを期待します。また、大会に先立ち、世界9ヶ国の安全運転普及活動推進責任者を集めた「1st Safe Driving Global Meeting」を開催。各拠点での安全運転普及活動の活性化を目的に理念の共有および今後の共通施策の方向性について確認し合いました。

海外での活動においては、各国の交通事情の急速な変化に合わせ、二輪市場が急激に拡大しているアジアを重点地域とし、各国の現地法人と連携しながら展開を拡大して参ります。

お客様と直に接する販売拠点では、今年もお客様に安全を手渡しする様々な活動を展開して参りました。「血の通う言葉と心で、お客様を事故から守ろう」という店頭活動の原点に立ち返り、今後もお客様の期待に応えられる活動に取り組んで参ります。

全国7ヶ所の交通教育センターでは、企業や一般の方々を対象とした参加体験型の実践教育に取り組み、安全運転スキルの向上とともに、企業の指導者育成や従業員教育の場として好評を得ています。また、交通社会の変化を先取りした各種の調査研究に安全運転普及本部と協働で取り組み、新たな教育ノウハウの開発に取り組んでいます。



### 2 「社会に求められるノウハウの創出と発信」

#### シミュレーション技術を応用した新たな活用

「より多くの人にクルマを操る楽しさを提供したい」「交通社会に参加するすべての人の安全を守りたい」という理念を実践するために、身体が不自由な方に車両運転時の安全性確保に向けた教育機会を提供し、交通事故削減に寄与することをめざしています。

今年発売した「リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト」はシミュレーション技術を活用し、高次脳機能障害により、リハビリ加療中で運転復帰をめざす方々の運転に対する評価や訓練をサポートできるもので、既に全国30ヶ所のリハビリテーション施設などで活用されています。

さらに、最終的な運転能力の評価をサポートするリハビリテーション向け「実車安全運転サポートプログラム」を交通教育センターに導入し、既に熊本県のリハビリ施設の対象者がプログラムを受講するなどソフトとの併用で、多くの方々の運転復帰をサポートしています。

また、今年新たに身体に障がいのある方や移送サービス者向けの安全運転に関する研究をスタートしました。Hondaの関連企業であり、多くの障がい者が働くホンダ太陽(株)、そして(株)レインボーモーターズスクール、(株)モビリティランドによる共同研究を開始し、福祉関連施設、団体との連携により、教育手法の研究を進めています。

#### 交通社会のなかで自ら考え、自らを守る

近年、自転車事故に遭いやすい高校生年代への交通安全教育の拡充が求められています。Hondaは交通安全教育を通じ、社会生活におけるルールやマナーの重要性、人への思いやりなど道徳心を養いながら豊かな人間性を育み、若く尊い命を守りたいと考えています。そのためには、交通安全について主体的に考え、自ら行動できる学習機会の提供が必要です。そこで、今年度より熊本県の関係行政機関のご理解とご協力のもと、新たな高校生交通安全教育を開始しました。単に自転車やバイクの乗り方を学ぶのではなく、危険を安全に体験しながら、何故危険なのか、危険を回避するために何が必要なのか、自ら気づいて安全行動に結びつけることで事故を起こさない、巻き込まれない安全意識の向上と人に迷惑をかけない道徳心を育み、良識ある交通社会人の育成をめざしています。

こうした考えを熊本県内の16の高校にご賛同いただき、延べ1万3000人の高校生に交通安全教育を行いました。将来的には、受講した高校生がインストラクターとなって、学校と生徒が主体と

なった校内自主活動へ発展させることが目標です。

また、熊本市内の服飾デザインコースをもつ高校では、生徒自らが交通安全を考え、安全意識を育む校内自主活動として、県内交通事故実態調査を行い高齢者の身体特性や反射素材の研究を行いながらHondaと協働し高齢歩行者向けのファッションショーを開催するなど多方面から注目と期待が寄せられています。

## 2013年に向けて

#### 地域に根ざした普及活動の実践

地域に根ざした普及活動は、活動開始から丸4年を迎えた今年、目標を1年前倒して一定の評価基準をクリアし、全国に定着したと考えています。来年度は活動を一時中断した東北3県への普及活動に取り組むとともに、地域指導者の皆様の活動を引き続きサポートして参ります。

一方、今年度から熊本県で開始した高校生交通安全教育活動は、バイクの「3ない運動」が大切な命を守るという観点から「自転車・バイク・歩行者のマナーアップ」という啓発活動へ方向転換する動きからも、その必要性が高まっています。熊本県での経験をもとに、交通安全教育を通じて道徳心を持つ、良識ある交通社会人の育成をめざす活動として全国への拡大をめざし、今後も積極的に展開して参ります。

#### 福祉に対応した安全運転ノウハウ・機器の開発

今年発売したリハビリテーション向け運転能力評価サポートソフトは、今後、全国約60ヶ所の病院・リハビリ施設において活用される予定です。さらに来年は、身体に障がいのある方や移送サービス者向けの安全運転教育プログラムの開発・導入を進め、車両運転時や移動時における安全性確保に向けた教育機会を提供し、交通社会への参加を支援していきたいと考えています。

また、益々、進展する交通社会の高齢化に対応し、高齢運転者向けの交通安全教育プログラムや運転適性判断ソフトの開発等に取り組み、安心・安全なカーライフを支援して参りたいと考えています。これら福祉領域への取り組みによって、従来から開発販売している福祉車両のハードと安全教育というソフトの両輪でHondaの福祉領域を展開して参ります。

このように高校生に対する教育の充実により、交通安全の生涯教育を補完し、さらに健常者に加え、障がい者・高齢運転者をも含めた普及活動により、Safety for Everyone、すべての人の安全をめざして取り組んで参ります。

今後ともHondaの安全運転普及活動へのご理解・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

# 地域の指導者の活動を継続的にサポート



Hondaは「手渡しの安全」の担い手である交通安全を伝える地域の指導者を養成するため、Hondaの考え方に賛同いただいた行政・警察・関連団体の関係者、交通指導員※、教習指導員、Honda関連企業の従業員に対し、Hondaの交通安全教育プログラムや教材を提供し、その活用方法をお伝えするなど、指導者の主体的な交通安全教育をサポートをしています。

※交通指導員=自治体や関係団体等に属し、地域において子どもや中学生・高校生、高齢者に対して交通安全教育を行う職員

## ● 地域に根ざした普及活動の定着化のために

Hondaでは、全国5カ所(下記参照)の各製作所内に地区普及ブロックを設置し、Hondaの交通安全教育プログラムや教材を活用した指導を実践するとともに、研修などを通じて、その教育ノウハウを地域の指導者にお伝えしています。これまでに約1万2000人の指導者を養成しました。

さらに、地域の指導者による主体的な交通安全教育をサポートするため、交通指導員の方々を対象にした情報交換会や合同研修会を全国各地で開催しています。相互の指導方法の確認(P11右上写真参照)や意見交換を通じて、指導力の向上に役立てていただき、継続的な活動につなげていただきたいと思います。

### ■地区普及ブロック 所在地

栃木普及ブロック (栃木県真岡市) TEL: 0285-84-7114  
 鈴鹿普及ブロック (三重県鈴鹿市) TEL: 059-370-1553  
 埼玉普及ブロック (埼玉県狭山市) TEL: 04-2955-5323  
 熊本普及ブロック (熊本県大津町) TEL: 096-293-3206  
 浜松普及ブロック (静岡県浜松市) TEL: 053-439-2316



●九州・山口地区交通安全指導者情報交換会  
福岡県、熊本県、宮崎県、長崎県、大分県、佐賀県、山口県から64名が参加



●中国・四国地区交通安全指導員合同研修会  
岡山県、広島県、島根県、香川県、徳島県、愛媛県、高知県、長野県から38名が参加

と考えています。今年1月に奈良県、栃木県、3月に埼玉県、8月に熊本県、埼玉県、香川県、福島県、11月に福井県で情報交換会や合同研修会が行われ、合計250名の交通指導員が参加しました。参加した交通指導員の方々からは、「他地域の教材や指導例を見る機会がないので、たいへん参考になる」「今回勉強した内容を自分たちの活動に取り入れたい」といった声をいただいています。今後も地域指導者との連携を維持し、このような取組みを継続してサポートしていきたいと考えています。

## ● Honda関連企業内にインストラクターを養成

Hondaは2008年より関連企業において、交通安全指導を担う専任のインストラクターを養成しています。交通安全教育センターで指定された養成研修を受講した関連企業の従業員は、Hondaパートナーシップインストラクター(HPI)として認定されます。37社94名が活動しており、今年新たに20社28名がHPIに認定されました。認定されたHPIは従業員への安全運転教育をはじめ、親子が楽しく交通安全を学べる参加体験型の「親子交通安全教室」(P14参照)などを実施し、各社周辺地域における普及活動に取り組んでいます。



高齢者に守ってほしいことを高齢者交通安全5則「まみむめも」として啓発(岡山県児島交通安全協会)



栃木、埼玉、浜松、鈴鹿、熊本で行われたHPI3期生の養成研修

### ■Hondaパートナーシップインストラクター養成企業(順不同)

(株)ケーヒン	(株)エフテック	(株)アツミテック	金田工業(株)	(株)モビリティランド	東洋電装(株)
(株)山田製作所	トビーファスナー工業(株)	(株)エフ・シー・シー	不二工業(株)	(株)今仙電機製作所	(株)ホンダロック
森六テクノロジー(株)	日信工業(株)	エンケイ(株)	(株)アイキテック	九州テイエス(株)	希望の里ホンダ
(株)ホンダロジスティクス	日本精機(株)	(株)桜井製作所	鈴鹿インター(株)	九州武蔵精密(株)	三桜工業(株)
(株)飯野製作所	武蔵精密工業(株)	(株)ユタカ技研	クミ化成(株)	九州柳河精機(株)	(株)ROKI
(株)ショーワ	京浜金属工業(株)	柳河テクノフオージ(株)	(株)ベストテック	合志技研工業(株)	
			テイ・エス テック(株)	(株)小林製作所	

## ● 教習指導員のレベルアップ教育

自動車教習所は運転免許取得のための教育の場としてだけでなく、地域での交通安全教育を実践する場としても期待されています。同じ志を持つ自動車教習所(P18参照)に対し、Hondaは教育プログラム・教材や指導者のレベルアップ教育の提供などを通じて、各地域の自動車教習所が主体的に取り組む交通安全活動をサポートしています。

今年、北海道では連携教習所である野付牛自動車学校、遠軽自動車学校、北広島自動車学校、釧路自動車学校、白石中央自動車学園、苫小牧ライビングスクール、苫小牧中野自動車学校、北海道クミアイ自動車学校、芽室自動車学校の教習指導員に対し、Hondaによる二輪車安全運転指導者養成研修会を実施しました。研修を受講した教習指導員は、卒業生対象イベントなどで一般のライダーへの安全運転指導を実践しています。



連携教習所の教習指導員を対象にした二輪車安全運転指導者養成研修会

# 企業・団体に交通安全教育を根づかせるノウハウを提供

運転管理者・指導者の養成



企業、団体における交通安全教育の普及には、日常的に具体的な指導のできる運転管理者や指導者が必要です。全国7か所にあるHondaの交通教育センター(P22参照)では、豊富な経験や知識・技能を持つインストラクターが企業・団体の運転管理者や指導者への安全運転教育にあたっています。

## ● 企業・団体に安全運転教育ができる指導者の育成をサポート

Hondaの交通教育センターでは、バイク・クルマを業務等で使用する企業・団体の実情に合った交通安全教育のノウハウを提供し、具体的に安全運転教育ができる指導者を養成する研修を実施しています。

毎日の通勤やバイク・クルマでの業務は、企業・団体においても、ライダー・ドライバーにおいても、常に事故に遭遇する可能性は否定できません。企業のリスクマネジメントとしても重要な取り組みです。

研修では、事故防止の観点や問題を指摘するだけでなく、自分自身で問題を発見し、解決のために自ら行動する参加体験型の実践教育を行っています。

また、企業の指導者養成の一環として、Honda社内での事業所における工場インストラクターの養成も担っています。養成された工場インストラクターは、従業員やその家族に



企業の安全運転管理者などを対象にした「安全運転指導セミナー」



鈴鹿製作所の工場インストラクターによる従業員指導の様子

安全を伝えるほか、周辺住民の方々への啓発活動に取り組んでいます。

## ● 社内の安全運転普及活動をレベルアップする機会の提供

Hondaのインストラクターの指導力ならびに運転技術の向上を図る場と機会の提供を通して、日本および全世界に通用するインストラクターの育成を目的に「セーフティジャパンインストラクター競技大会」を1997年から開催しています。13回目となる今年は、国内の交通教育センターや事業所、海外9か国からインストラクター71名が選手として参加。二輪部門と四輪部門に分かれ、それぞれ3種目の競技が行われました。さらに、こうした競技だけでなく、選手は指導者としての幅広い知識や指導力を確認する「指導力審査」(海外選手は「筆記レポート」)も行いました。



9月に鈴鹿サーキット交通教育センターで開催されたセーフティジャパンインストラクター競技大会



# 幼児の段階から成長に合わせた交通安全教育を普及

幼児・小学生  
中学生・高校生



Hondaは、幼児から高校生まで、様々な年代の方々に参加・体験して、交通安全について考えながら学べる場と機会を提供しています。

## 幼児・小学生

子どもには、幼児期から発達段階に合わせた交通安全教育が必要であると考え、幼児・小学生には交通行動の基本である「止まる」「観る(観察する)」を身につけてもらうための教育を普及しています。

## ● 地域の指導者による Hondaの交通安全プログラムの活用

子ども向け交通安全教育プログラム「あやとりい」は、子どもの成長に応じ3つのプログラムがあります(P27参照)。この「あやとりい」による教育の場を普及させるため、Hondaでは地域の指導者に教材と指導ノウハウを提供。既に、全国各地の交通指導員を中心に活用いただいています。例えば、山口県宇部市の交通指導員の方々は幼稚園での交通安全教室の導入に「あやとりい ひよこ編」の音当てクイズを取り入れ、「どの幼稚園でも子どもの集中力が高まる」と好評いただいています。また、岡山県津山市の交通指導員の方々は小学生を対象に鈴鹿普及ブロックのインストラクターと「あやとりい 自転車教室」を開催しました。こうした地域の指導者を通じて、今年は全国各地で約36万人(10月末現在)の子どもたちが「あやとりい」による交通安全教育に参加しました。

また、「あやとりい」だけでなく、「Honda交通安全かるた」(P27参照)の活用も進んでいます。静岡県交通安全協会藤枝地区支部の交通安全指導員は、遊びを通じて交通安全に親しむことができることから「交通安全かるた」を小学生への指導に取り入れています。



山口県宇部市の交通指導員による明光幼稚園での「あやとりい ひよこ編」



岡山県津山市の交通指導員と鈴鹿普及ブロックのインストラクターによる津山市立勝加茂小学校での「あやとりい 自転車教室」



静岡県交通安全協会藤枝地区支部の交通安全指導員による「Honda交通安全かるた」を使った指導

幼児・小学生  
中学生・高校生

● 子どもと親が楽しく交通安全を学ぶ  
● 親子交通安全教室

Hondaパートナーシップインストラクター(HPI・P11参照)は、自治体や関係諸団体と協力して、親子が楽しく交通安全を学べる参加体験型の「親子交通安全教室」を開催しています。その目的は、子どもには事故の危険や怖さ、保護者には自らが事故を防ぐ知識と、子どもの行動特性を理解してもらうためです。トラックの死角に入った自転車や左折時に巻き込まれる状況を確認したり、飛び出しなど子どもに多い事故事例を模擬再現したりするなど、親子に気づきを促すプログラムを実施しています。この他、地元の交通指導員等の協力により「あやとりひよこ編」を活用した教育を行っています。2008年に九州地区の「熊輪会※」から始まり、東北・関東・信越地区の「Honda関連企業災害防止協議会※」、鈴鹿地区の「七代会※」が関連企業近隣の親子を対象とした交通安全教室を開催しています。

※「Honda関連企業災害防止協議会」「さつき会」「七代会」「熊輪会」ともに、Honda 関連企業からなる組織。



(株)飯野製作所が福島県南会津町で開催した親子交通安全教室



トピーファスナー工業(株)が長野県松本市で開催した親子交通安全教室

中学生・高校生

自転車・二輪車などの事故に遭いやすい中学生・高校生年代には、交通ルールを守ることや思いやる心を持つことの大切さに気づいてもらうことで、自ら行動を変えてもらうための教育を展開しています。

● 中学生に安全教育の機会を提供

中学生になると通学での自転車利用も多くなります。中学生の登下校中の自転車事故防止のため、鈴鹿サーキット交通教育センターでは、亀山市立中部中学校(三重県亀山市)の1年生174名を対象に交通安全教室を実施。座学と実技により、自転車事故をどうしたら防止できるかを生徒たちに考えてもらいました。

三重県鈴鹿市の交通安全教育指導員はHondaの自転車教育プログラムをもとに鈴鹿市立鈴峰中学校の1年生116名を対象に交通安全教室を開催しました。校庭に設けたコースで、指導員が見通しの悪い交差点での安全な通行方法の模範を見せた後に、生徒全員が自転車に乗車して同じコースを走行。そして、一時停止や安全確認ができていないかを他の生徒がチェックし、生徒同士で良かった点や不十分だった点を話し合いました。他者の行動を観察することで気づきを促し、行動変容につなげることを目的としています。



鈴鹿サーキット交通教育センターでの亀山市立中部中学校の1年生を対象にした交通安全教室



鈴鹿市立鈴峰中学校での交通安全教室

● 熊本県での新たな高校生交通安全教育活動

Hondaは高校生に対して、交通安全教育を通じ、社会生活におけるルールやマナー、人への思いやりなど道徳心を養いながら豊かな人間性をはぐくみ、若く尊い命を守りたいと考えています。そのためには、交通安全について主体的に考え、自ら行動できるようになるための学習機会の提供が必要です。そこで、熊本県、熊本県警察本部、熊本県教育委員会の協力のもと、熊本県内で新たな高校生交通安全教育活動を今年4月から開始しました。その内容は自転車や二輪車(原付)を利用する高校生年代の交通事故実態に即し、説得ではなく、納得性のある教育として、参加体験型の実践教育を柱に、道徳的な教育を加えたものです。例えば自転車の片手運転や傘差し運転を体験することで、バランスがとりにくいことや歩行者に対して危険であることを実感してもらっています。また、交差点での安全確認は他の車両や歩行者の安全を確保するという「思いやり」の意味があることを伝えています。すでに熊本県内16校の高校生約1万3000人に教育を行いました。

高校の先生方からは「単に運転技術を向上させるのではなく、交通安全を通じて道徳心ある交通社会人を育てようとしている講習内容に感心した」という声をいただいています。将来的には、受講した高校生がインストラクターとなって、学校と生徒が主体となった校内自主活動へ発展させることが目標です。

● 高齢者への反射材の普及に向けた高校との協働

高校生が主体となって生徒自らや周囲にいる人々の安全意識を高めてもらうための活動の1つとして、Hondaは熊本市立必由館高等学校(熊本県熊本市)と協働で反射材を活用した高齢者が着用しやすい衣服のデザインと製作を行いました。生徒が学んでいる知識や技術がいかに高齢者の交通安全に結びつくかを考えてもらうことがねらいです。そして、さらに、その高校生を通じて周囲の高齢者に反射材の利用促進を図ることを目標としています。「生徒が学んでいるファッションの知識や技術を高齢者の事故防止に活かしたい」と、生徒自らが交通安全を考え、安全意識を育む校内自主活動として県内の交通事故実態調査や、高齢者の身体特性、反射素材の研究を行い、夜間、ドライバーに目立つデザインを考案。8種類の衣服を製作し、9月に開催された熊本県民交通安全大会や同校の文化祭で発表しました。指導を担当した先生からは「交通安全の視点を学ぶことで、生徒は自分の表現が社会でどのように役立つか実感できたと思います」と評価いただいています。



熊本県立翔陽高等学校での二輪車(原付)教育



熊本県立湧心館高等学校での自転車教育



熊本県立多良木高等学校での自転車教育



熊本市立必由館高等学校の文化祭での服飾デザインコースの生徒たちによる反射材を活用した衣服の発表



# 安全への気づきと理解を促す 参加体験型の実践教育



ドライバーやライダーなどの運転者、高齢者に向けて、より安全について理解を深めていただくため、参加体験型の実践教育を主体とした交通安全に役立つ知識と技術を届けています。また、販売会社では、お客様や地域の方々との関わりを大切にしながら、手渡しで安全をお伝えする活動を展開しています。

## ● 手渡しで安全を伝える「販売会社」

二輪・四輪・汎用販売会社では、お客様との触れ合いを大切にしながら、手渡しの安全活動に取り組んでいます。安全運転に関するHondaの社内資格<sup>※1</sup>を取得したスタッフが中心となって、店頭やイベントなどで安全アドバイスを行っています。

毎年、春と秋の「全国交通安全運動」(主催:内閣府ほか)に合わせて、オールHonda<sup>※2</sup>で、「セーフティキャンペーン」を開催しており、販売店スタッフ全員が「交通安全啓発リボン」をつけて自ら交通安全を実践するとともに、地域での街頭立哨活動など地域の交通安全に積極的に関わっています。秋のセーフティキャンペーンでは、兵庫県のHonda Cars 兵庫が児童登校交通安全活動を実施しました。Honda Cars 岡山では、お客様を対象にした安全ミニ講習会を実施し、車両の死角やタイヤパンク修理キットの使用など日常の運転に関わる6つの項目について安全アドバイスを行いました。

また、Honda Dream九州では大分県天ヶ瀬温泉への1泊バイクツーリングを開催。バイクの安全アドバイスのほか、Honda 交通安全かるたを使ったイベントなどを実施し、盛況でした。



Honda Cars 岡山・倉敷笹沖店による安全ミニ講習会



Honda Cars 兵庫による児童登校交通安全活動

※1 Honda の社内資格には、お客様に店頭などでアドバイスができる「セーフティコーディネーター」、安全講習会の企画立案、開催の実施指導ができる「チーフセーフティコーディネーター」、お客様の安全で楽しいモーターサイクルライフをサポートする「ライディングアドバイザー」、電動カート「モンバル」の安全な乗り方や正しい取り扱いなどについてアドバイスできる「モンバル安全運転指導員」などがある。

※2 Honda の全事業所、交通教育センター、四輪販売会社、二輪販売会社(Honda DREAM)、汎用販売会社、ホンダ輸送グループ。

## 高齢者

高齢者には自身の身体機能の低下を自覚してもらうとともに、意識と行動のずれを少なくするための気づきを促す教育プログラムを展開しています。

## ● 高齢者への交通安全教育

高齢ドライバーおよび歩行中の高齢者が関わる交通事故の数は年々増加しています。そこで地域の交通指導員が、高齢者の方々を対象に運転者、自転車利用者、歩行者それぞれの立場での交通安全教育を実施しています。岡山県児島交通安全協会のシルバーサポーターは交通安全教育プログラム「交通安全ビデオ講座」を使って、高齢者への講習を行っています。これは、ビデオに撮影された交通状況(歩行者や自転車利用者、クルマの動き)を観察して、その感想や意見を高齢者同士で交換し、日頃の自分の行動を振り返るというものです。自らの良いところや問題点を見つけ出し(気づき)、問題点に対しては自らの力で正しい答えを見つけ出す(解決)ことを促しています。

また、Hondaを定年退職したOBの方々も交通安全教育に取り組んでいます。OBの一人、安岡廣幸さんは交通安全普及ボランティア指導員として熊本市周辺を中心に活動。「シルバー集大学」(P27参照)などHondaの教育プログラムをもとに地域の交通事情に合わせ、高齢の運転者、自転車利用者、歩行者を対象にした座学講習を行っています。

このほか、交通教育センターでも高齢ドライバー向けの少人数制教育プログラム「Honda 健康ドライブスクール<sup>※</sup>」を実施しています。



岡山県児島交通安全協会のシルバーサポーターによる「交通安全ビデオ講座」



交通安全普及ボランティア指導員として熊本市内で活動しているHonda OBによる座学講習

※東北工業大学の太田博雄教授らが公益財団法人国際交通安全学会などで研究成果を報告している「自己観察法」の手法を取り入れている。自分の運転を録画して観察し、「我が身振り返り、我が振り返す」手法。

## 運転者

ドライバーやライダーなどの運転者には、参加体験型の実践教育により、安全についての理解を深めていただくための場を、交通教育センターや二輪・四輪・汎用販売会社が提供しています。

## ● 高度な安全運転教育を提供する

### ● 「交通教育センター」

交通教育センターでは、企業・団体、学校、個人のお客様を中心に安全運転教育を行っています。今年は約8万6000人(10月末現在)の方にご利用いただきました。

個人のお客様向けには、Hondaモーターサイクリスト・スクール(二輪)やHondaドライビング・スクール(四輪)を開催。お客様のスキルやニーズに合わせたトレーニングを行っています。

企業向けには、業務内容や安全管理の実態に応じたプログラムをオーダーメイドで提供。職場の安全指導者や運転経験の少ない新入社員への研修など幅広くご活用いただいています。鈴鹿サーキット交通教育センターでは、(株)NTTファシリティーズをはじめ、災害時に現場に急行する緊急自動車の運転者を対象にした緊急走行訓練を実施しています。

研修を利用した企業からは「事故防止のための実践的なトレーニングができる」「社員の安全意識の向上に役立っている」と好評です。さらに企業や団体の交通安全推進担当者様の情報交換の場も提供しています。交通教育センターレインボー埼玉・和光(埼玉県)では「2012トラフィック・セーフティ・フォーラムin埼玉」を開催し、約260名の方々に参加していただきました。



鈴鹿サーキット交通教育センターでの(株)NTTファシリティーズ・緊急車両運転者研修



アクティブセーフティトレーニングパークもてぎでのHondaモーターサイクリスト・スクール

# 自動車教習所と連携し、地域での交通安全教育を実践



地域に根ざした活動を拡げ、定着させるためには、Hondaの活動拠点だけではカバーできる範囲は限られてきます。そこで、Hondaは地域において交通安全活動に積極的に取り組んでいる自動車教習所と連携し、交通安全の輪を全国に拡げています。

## ● 自動車教習所の主体的な活動をサポート

- 今年は北海道ホンダ販売(株)との共催により、「Hondaおもしろツーリング&二輪車安全運転実技講習会」を北海道夕張市で開催、Hondaによる二輪車安全運転指導者養成研修を受けた北海道の連携教習所の教習指導員(5校8名)が実技指導を行いました。参加者は低速バランス・ブレーキングなど基本的な実技指導に加え、目の錯覚による事故の危険性について、同じ距離から見たバイクとクルマの距離感の違いを学びました。指導を担当した教習指導員は「私たちのアドバイスによって、受講者の方々に意識して自己流の運転を改善していただけたので良かった」と話しています。
- また、富山県では富山自動車学校と富山県ホンダ会\*が連携し、セーフティナビや自転車シミュレーターなどの体験を通じて、地域の方々に交通安全への理解を深めてもらう「セーフティ・フェスティバル in 富山」を開催しました。

\*富山県内にあるHondaの四輪販売会社で構成する組織

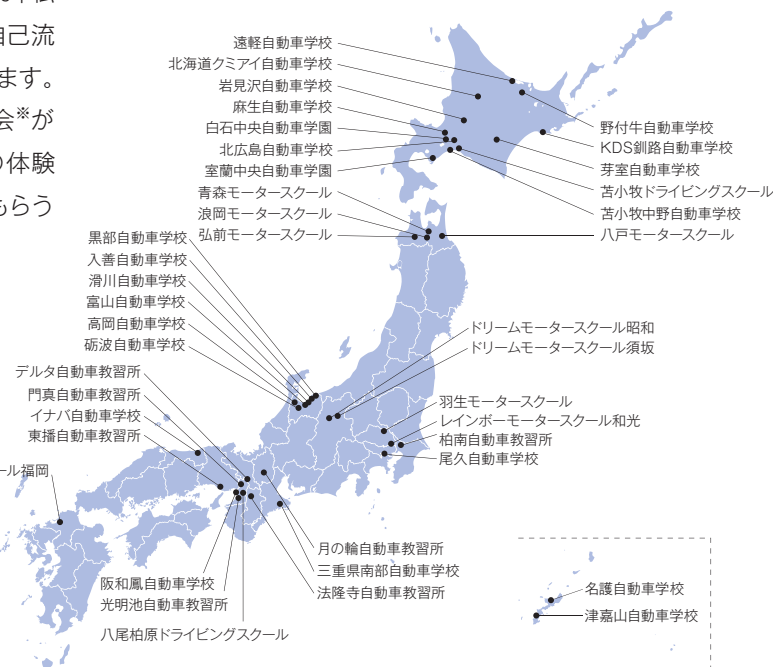


富山自動車学校で行われた「セーフティ・フェスティバル in 富山」



連携教習所の教習指導員による「二輪車安全運転実技講習会」での実技指導

## ■ 連携自動車教習所(16都道府県41校)



# 関係諸団体と連携し、交通事故の低減をめざす

Hondaでは、交通安全活動をされている関係諸団体や業界の方々とも積極的に連携を深め、交通事故の低減に向けて取り組んでいます。

## ● 業界活動などへ積極的に協力

- 今年度、一般社団法人日本自動車工業会(以下、自工会)では、茨城県内における交通事故死者数低減のため、関係団体等と連携をとりながら、交通安全教育やキャンペーンを展開しています。その一環として、秋から年末にかけて増加する歩行中の高齢者の死亡事故を減らすため、ドライバーに夕方早めのヘッドライト点灯を呼びかける「トワイライト・オン キャンペーン」を実施しました。秋の全国交通安全運動の初日には、茨城県交通安全協会が主催する「茨城路セイフティロードの日」街頭キャンペーンに自工会も協力。Hondaも自工会の一員として、水戸市内の交差点に「トワイライト・



「茨城路セイフティロードの日」街頭キャンペーンに自工会の一員としてHondaも協力



茨城県茨城町が開催する高齢者向け講習「長生大学」では「あやとりい 長寿編」を活用

オン」を呼びかけるのぼり旗を掲示し、ドライバーに夕方早めのヘッドライト点灯を呼びかけました。

この他、7月には栃木普及ブロックが茨城県茨城町の高齢者を対象に「あやとりい 長寿編」(P27参照)を活用した歩行者教育を行うなど、様々な形で協力しました。

## ● 教習指導員のレベルアップと交流の場を提供

- 全国の自動車教習所教習指導員の皆様の自己研鑽への動機づけや交流の場を提供することを目的として、2001年に始まった「全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」は今年12回目を迎えました。会場となった鈴鹿サーキット交通教育センターで、全国73校140名の教習指導員の皆様が2日間にわたり競技に取り組みました。



第12回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会での四輪競技

## ● 埼玉県警察本部との共同研究を実施

- 警察との連携では2011年末に、埼玉県警察本部とHonda、(株)レインボモーターズスクールとの間で「交通事故削減のための協力に関する覚書」を交わし、今年、共同研究に取り組みました。夜間の道路横断歩行者や路上寝込み者が顕著であることから、こうした死亡事故の原因を自動車側と歩行者側の両面から究明することを目的としています。



高齢歩行者横断事故削減に向けた埼玉県警との共同実験(協力:石田敏郎・早稲田大学人間科学学術院人間情報科学科教授)

## ● 二輪車の交通事故防止のために

- 二輪車では、財団法人全日本交通安全協会二輪車安全運転推進委員会が主催する「二輪車安全運転全国大会」での審判業務のほか、一般社団法人全国二輪車安全普及協会が展開する参加体験型の安全運転講習会「グッドライダーミーティング」の指導に協力しました。
- また、1969年より警察庁が開催している「全国白バイ安全運転競技大会」でも審判業務などに協力しています。



第45回二輪車安全運転全国大会の審判業務などに協力



第43回全国白バイ安全運転競技大会の審判業務などに協力

## 先進性・独自性のある教育プログラムを開発



Hondaは「より多くの人にクルマを操る楽しさを提供したい」「交通社会に参加するすべての人の安全を守りたい」という理念を実践するために、身体が不自由な方に車両運転時の安全性確保に向けた教育機会を提供し、交通事故削減をめざしたいと考えています。これまでに蓄積したノウハウをもとに、福祉領域における安全運転教育の新たな価値を提供しています。

### ● リハビリテーション中の方の運転復帰をサポート

- 厚生労働省の資料によれば、全国には約170万人のリハビリ加療中の方々が社会復帰をめざしています。そして、こうした方々の中には、運転復帰を希望される方もたくさんいます。しかし、クルマの運転を再開できるかどうかの明確な基準は存在せず、担当の医師や作業療法士の方々がその判断に苦慮しているという現状があります。そこで、Hondaは四輪ドライビングシミュレーターの技術を活用して、リハビリ中の方の運転に対する評価や訓練をサポートするための「リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト」を開発し、発売しました。既に30カ所のリハビリ施設で活用されています。その1つ、高知県の近森リハビリテーション病院では今年5月にこのソフトを導入。担当の医師からは「患者様のリハビリへのモチベーションアップにつながっている」と好評いただいています。



熊本セントラル病院の患者の方がリハビリテーション向け運転能力評価サポートソフトを利用

### ● 実車走行による体験で運転能力を把握

- 最終的な運転能力の評価をサポートする「リハビリテーション向け実車安全運転サポートプログラム」を交通教育センターに導入し、運転能力評価サポートソフトとの併用により、運転復帰をサポートすることをめざしています。
- 熊本セントラル病院でリハビリ中の方が交通教育センターレインボー熊本でこのプログラムを受講。インストラクターと一緒に実車に乗り、交通教育センター内のコースで安全運転に必要な認知・判断・操作の基本行動を体験しました。
- 病気のため3年以上、クルマの運転をしていなかったという60歳の方は「久しぶりにクルマに乗って『運転は楽しい』とあらためて感じました。こうした施設で安全に練習ができて良かったと思います。事前にサポートソフトによるトレーニングをやっていたことも安心感につながりました」とプログラムを体験した感想を話してくれました。
- 熊本セントラル病院医療技術部リハビリテーション科担当次長企画室室長の大島正道さんは「プログラムを受講した患者様がたいへん喜ばれていたのが印象的でした。今回は実際の運転場面に近い状況での練習だったので、患者様が運転する時の課題を把握することができました。私たちが思っていた以上の運転能力を見せてくれた方もいましたから、これまでの患者様に対する認識を見直す材料として役立ちます」と、このプログラムを評価しています。



交通教育センターレインボー熊本での熊本セントラル病院の患者の方を対象にした「リハビリテーション向け実車安全運転サポートプログラム」

### ● 身体が不自由な方の安全な移動のために

- Hondaは、身体が不自由な方が便利で快適に移動ができる福祉車両の開発・普及に力を入れています。そして、福祉車両の普及に合わせて、車両運転時の安全性確保に向けた教育機会を提供していくことが必要です。
- 身体が不自由な方の運転方法は一般的な運転とは大きく異なるため、一人ひとりの身体の状態に合わせた安全運転教育が必要になります。また、移送サービスに従事するドライバーは、身体が不自由な方に配慮した運転方法が必要になりますが、現在、そうした教育機会はほとんどなく、移送中の交通事故が多発するなど、福祉領域の安全運転に関する課題が顕在化されています。
- そこで、今年、Hondaの関連会社であるホンダ太陽(株)と(株)レインボーモータースクール、(株)モビリティランドと共同で身体に障がいのある方や、移送サービス者向けの安全運転に関するプログラムの研究・開発に着手したところです。こうしたプログラムによる安全運転教育を通じて、Hondaは身体が不自由な方の交通社会への参加を支援していきたいと考えています。

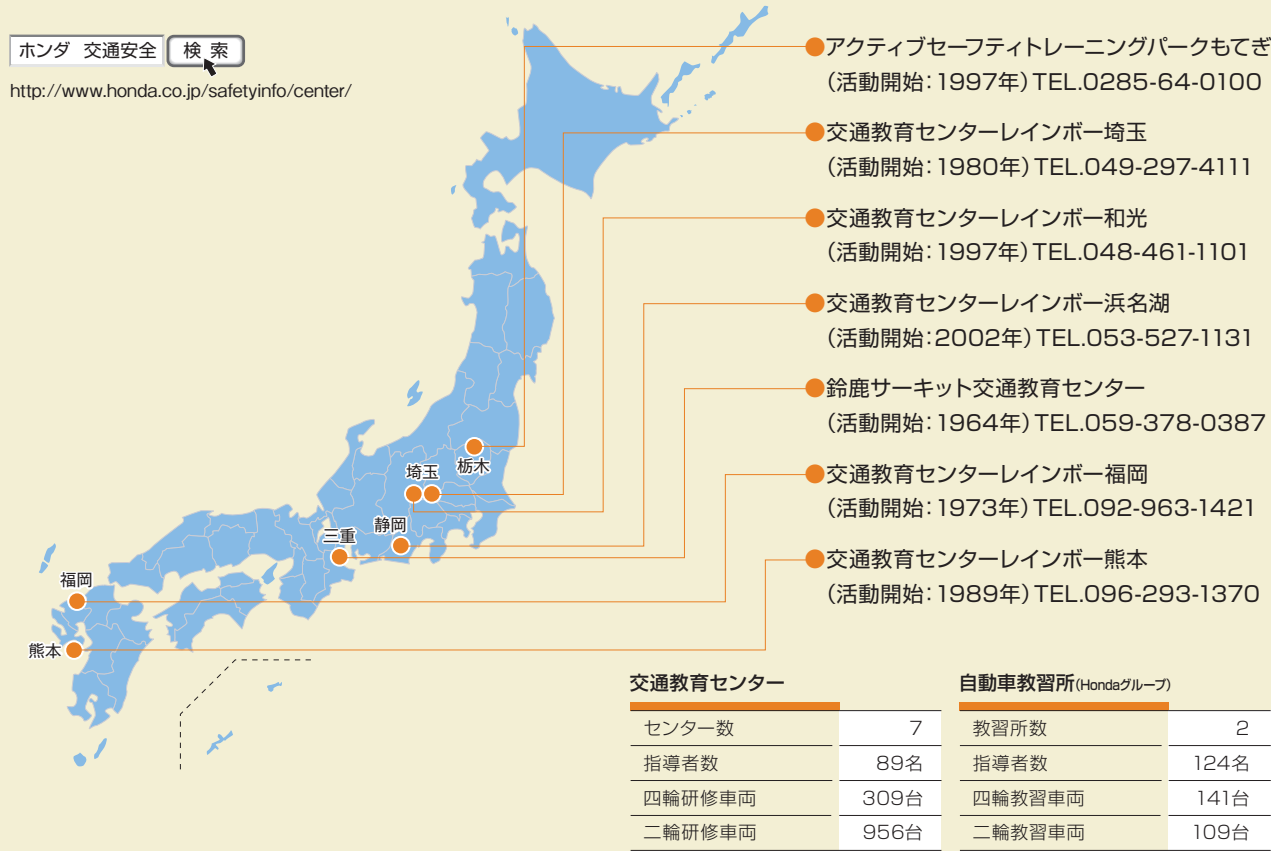


現在、研究・開発が進められている、身体に障がいのある方や、移送サービス者向けの安全運転教育プログラム

交通教育センター

ホンダ 交通安全 検索

<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/center/>



交通教育センターが提供する安全運転教育プログラム

Hondaの交通教育センターでは、社内外の指導者養成や、企業、学校、個人のお客様を中心に安全運転教育を行っています。個人のお客様向けには、クルマやバイクの魅力を実感いただきながら、楽しく安全運転の知識を身につけていただける様々なコースを用意しています。

HMS (Hondaモーターサイクリスト・スクール)

HMSは、車両の取り回しや運転姿勢、ライディングの基本である「走る・曲がる・止まる」を身につけていただく参加体験型のスクールです。専門のインストラクターが安全運転のポイントをアドバイスし、運転技術とともに安全意識を高めることができます。



親子でバイクを楽しむ会

バイクに乗る体験を親子で共有することで、親子の絆を深めていただくためのスクールです。お父さん、お母さんが先生になって、バイクの操作方法や楽しさ、交通ルールやマナーの大切さをお子様へ伝えます。ご家族のコミュニケーションづくりにも最適です。



HDS (Hondaドライビング・スクール)

HDSは、日頃の安全運転に役立つ知識や技術を身につけていただく参加体験型のスクールです。運転に自信がない方には基本から丁寧にアドバイス。もっと運転を楽しみたい方も、Hondaの先進設備で危険を安全に体験する運転トレーニングが行えます。



企業向け安全運転研修

各企業の実情に合わせた交通安全教育を提供しています。これまでに1500社を超える企業様の交通安全対策をサポートしています。安全運転研修に参加された企業様は、その後の実績や調査から、事故の減少効果が確かめられています。



海外拠点

海外でのお客様や地域社会へ交通安全を伝える活動は、Hondaの現地法人・関係拠点が主体となって展開し、世界36カ国で活動しています。(日本を除く)



活動事例

海外では、販売店でのお客様への安全啓発や、交通教育センターでの実践教育、地域の方々を対象とした生涯教育など、政府や関係団体と連携しながら各国の交通事情に即した活動が様々な形で展開されています。

ベトナム

Honda Vietnamでは販売店を通じて地域の子供や学生に対する活動が拡大しています。また、それらの活動を支える販売店のインストラクターの育成を強化しており、販売店インストラクターによる競技大会なども開催されています。

高校生向け安全講習会 (ライディングトレーナーを使った集合研修)



販売店インストラクター競技大会



タイ

A.P.Hondaでは、従来より販売店での活動や交通教育センターでの活動など、積極的な安全運転普及活動が展開されています。特に政府や関係団体と連携した活動がさらに拡充しており、国家ぐるみでのZero Accidentキャンペーンの展開をリードしています。また、販売店が地域の職業訓練学校に対して安全運転教育の提供も含めた支援活動を展開する社会貢献プロジェクトも立ち上がりました。

Zero Accident キャンペーン



ワンディーラー・ワンスクールプロジェクト



## 2012年安全運転普及活動動員数(2012年1月~12月末見込み)

## Hondaグループ活動

地域普及活動	指導者	参加者
あやとりいしりーず	1,059	7,261
自転車シミュレーター教育	573	29,984
いきいき運転講座	132	1,286
シルバー楽集大学	237	370
交通安全ビデオ講座	192	753
その他のイベント	343	25,560
<b>交通教育センター</b>		
企業向け四輪講習	2,421	31,668
企業向け二輪講習	888	5,535
個人向け四輪講習	-	2,615
個人向け二輪講習	-	20,325
その他 ※安全運転管理者講習 反映	90	41,228
<b>販売会社</b>		
安全運転講習会	192	7,145
<b>Hondaグループ活動合計</b>	<b>6,127</b>	<b>173,730</b>
<b>総合計</b>	<b>179,857</b>	

## 海外(シンガポール、タイ、インドネシア、ベトナムなど主要活動国10カ国での実績)

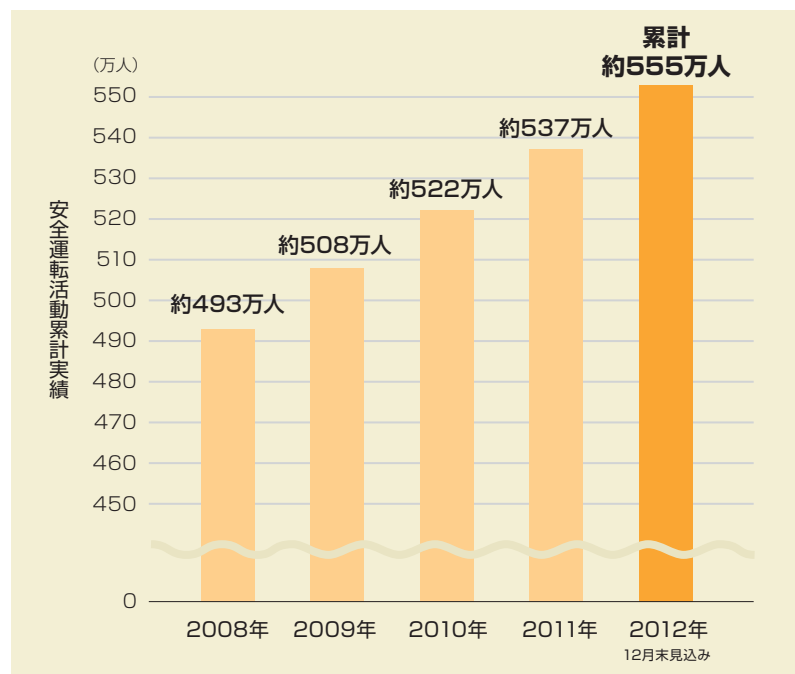
地域普及活動	参加者
安全運転普及活動	3,340,000
<b>海外合計</b>	<b>3,340,000</b>

## 地域連携活動

地域普及活動	指導者	参加者
地域普及活動	35	518,625
教習所	103	74,561
その他イベント	-	109,413
<b>地域連携活動合計</b>	<b>138</b>	<b>702,599</b>
<b>総合計</b>	<b>702,737</b>	

## 2012年安全運転普及活動動員数累計

(Hondaグループ活動、1970~2012年12月末見込み)



## 安全運転普及活動一覧

## Hondaグループ活動

活動の場	活動内容	指導者	主な対象 子ども 学生 一般・指導者 高齢者	
国内	四輪 販売会社 レインボーディーラー*1	店頭安全アドバイス/安全ミニ講習会/ドライビングスクール/地域の交通安全活動協力	セーフティコーディネーター/チーフセーフティコーディネーター	● ● ●
	一輪 販売会社 セーフティサポートディーラー*2	店頭安全アドバイス/ライディングスクール/地域の交通安全活動協力	ライディングアドバイザー/スポーツライディングスクールインストラクター	● ● ●
	汎用	店頭安全アドバイス	モンバル安全運転インストラクター/モンバル安全運転指導員	●
	交通教育センター	運転者、指導者研修/二輪・四輪販売拠点研修/一般ライダー、ドライバースクール/指導者の交流と指導力向上のためのイベント、競技会/各年代別講習	交通教育センターインストラクター	● ● ● ●
	地区普及ブロック	地域の交通安全活動協力/指導者養成協力	安全運転インストラクター	● ● ●
	Honda事業所	従業員への交通安全指導/地域の安全運転指導	安全運転インストラクター	●
	Honda関連会社	地域の交通安全活動協力	Honda パートナースhipインストラクター	● ● ● ●
	自動車教習所との連携	地域の交通安全活動協力/二輪・四輪スクール	教習指導員	● ● ● ●
	業界活動	交通安全キャンペーン/交通安全教育プログラムの編纂/指導者養成協		● ● ● ●
	海外 現地法人	販売拠点(四輪・二輪)	店頭安全アドバイス/ドライビングスクール/ライディングスクール/地域の交通安全活動協力	販売拠点インストラクター
交通教育センター		指導者研修/二輪・四輪販売拠点研修/一般ライダー、ドライバースクール/ドライビング・ライディングシミュレーターによるトレーニング/地域の交通安全活動協力/運転免許取得講習/指導者の交流と指導力向上のためのイベント、競技会	交通教育センターインストラクター	● ● ● ●

\*1 レインボーディーラー: Hondaの安全に関する認定基準を満たした四輪販売拠点。  
 \*2 セーフティサポートディーラー: Hondaの安全に関する認定基準を満たした二輪販売拠点。

## 情報公開

 
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/>

## ホームページや情報紙を通じた情報発信

ホームページ「安全運転普及活動」では、安全運転に役立つ情報を発信。安全運転やエコドライブのポイントをはじめ、お子様や高齢者の方々に交通事故にあわないようにしていただくためのアドバイスを紹介しています。

サイトはバラエティに富んだ内容となっており、イラストや動画で分かりやすく交通安全について学べる「危険予測トレーニング(KYT)」、親子で遊びながら学べる「交通安全ゲーム」のほか、「事故事例から学ぶ、自転車の危険走行」をはじめとした冊子や指導者向け教材などがダウンロードできるようになっています。学校や地域の交通安全教室でぜひ活用ください。

また、1971年より発行しているHondaの交通安全情報紙「S」を通じて、指導者の方に役立てていただける情報提供を行っています。



## その他Hondaの主な情報公開

Hondaの「業績」や「CSR」「環境保全活動」「社会活動」については、下記の冊子およびホームページで情報を開示しています。



## CSRレポート

Hondaの2011年度の企業の社会的責任(CSR)をはたすための主な活動を、年次性の高い情報を中心にまとめた報告書。2012年7月発行  
<http://www.honda.co.jp/csr/>



## アニュアルレポート

Hondaの2011年度の業績概要をまとめた報告書。2012年7月発行  
[http://www.honda.co.jp/investors/library/annual\\_report/](http://www.honda.co.jp/investors/library/annual_report/)



## 環境年次レポート

Hondaの環境への取り組みの考え方と2011年度のおもな実績および今後の目標をまとめた報告書。2012年6月発行  
<http://www.honda.co.jp/environment/publications/index.html/>



Hondaの社会活動Webサイト  
 Hondaの社会活動の考え方や幅広い活動内容を紹介するWebサイト。  
<http://www.honda.co.jp/philanthropy/>

## 安全運転普及本部 この1年の歩み

- 12月**
- 埼玉県警察本部、(株)レインボーモーターズスクール、Hondaが「交通事故削減のための協力に関する覚書」締結(12/8)
  - 「九州地区交通安全普及活動合同報告会」開催(熊本県、12/15)
- 2012**
- 1月**
- 「東海・近畿地区交通安全教育指導員合同研修会」開催(奈良県、1/12~13)
  - 「ひたちなか市地域指導員講習会にて「動画KYT」を実施(茨城県、1/20)
- 2月**
- 石川県警察本部新任警察官研修会にてHondaの交通安全教材を活用した指導要領説明および実演(2/2)
  - 埼玉県、静岡県、三重県で「交通安全普及活動合同報告会」開催
- 3月**
- 「熊本県高校生交通安全活動開始式」(熊本県、3/15)
  - 「リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト」発売(3/15)
  - 「交通指導員情報交換会」(埼玉県、3/15)
  - 熊本県高校生交通安全教育 2校実施(熊本県)
- 4月**
- 「Honda春のセーフティキャンペーン」実施(4/6~5/6)
  - 前橋交通安全協会女性部研修会にて「あやとりい ひよこ」「シルバー集集大学」を実施(4/19)
  - 熊本県高校生交通安全教育 10校実施(熊本県)
- 5月**
- 三重県の教職員対象に「中学生自転車指導について」の講習を実施
  - 「第12回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」開催(三重県、5/31~6/1)
  - 熊本県高校生交通安全教育 5校実施(熊本県)
- 6月**
- 岡山県および広島県の教職員対象に安全研修を実施
  - 北海道ホンダ販売と地元自動車教習所との合同で「Honda おもしろツーリング&二輪車安全運転実技講習会」開催(北海道、6/24)
  - 熊本県高校生交通安全教育 4校実施(熊本県)
- 7月**
- 茨城県で高齢者対象「あやとりい長寿編」を実施(茨城県、7/17~18)
  - 「鈴鹿8時間耐久ロードレース」の前夜祭イベントでHondaのインストラクターが鈴鹿市内でのバイクの交通安全パレードを先導(三重県、7/28)
  - Honda Cars大野東が「セーフティドライブングスクール」開催(福井県、7/1)
  - 熊本県高校生交通安全教育 2校実施(熊本県)
- 8月**
- 「九州・山口地区交通安全指導者情報会」開催(熊本県、8/2~3)
  - 「第43回二輪車安全運転全国大会」に審判派遣協力(三重県、8/4~5)
  - 「南関東甲信越地区交通指導員情報交換会」開催(埼玉県、8/21)
  - 「中国・四国地区交通安全指導員合同研修会」開催(香川県、8/23~24)
  - 「北関東・東北エリア交通指導員研修及び情報交換会」開催(福島県、8/23~24)
  - 「2012 トラフィック・セーフティ・フォーラムin 埼玉」開催(埼玉県、8/29)
- 9月**
- 「Honda秋のセーフティキャンペーン」実施(9/10~30)
  - 「1st Safe Driving Global Meeting」開催(三重県、9/12)
  - 「第13回セーフティジャパンインストラクター競技大会」開催(三重県、9/13~14)
  - 富山自動車学校、富山県Honda会と共催で「セーフティ・フェスティバルin富山」を開催(9/22)
  - 「国際福祉機器展」に「Hondaセーフティナビ」を出品(9/26~9/28)
  - 熊本県高校生交通安全教育 5校実施(熊本県)
- 10月**
- 警察庁「第43回全国白バイ安全運転競技大会」に審判派遣協力(10/6~7)
  - 緑十字展に「Hondaセーフティナビ・自転車シミュレーター・動画KYT」出品協力(富山県、10/24~26)
  - 熊本県高校生交通安全教育 3校実施(熊本県)
- 11月**
- 「安全運転指導セミナー」を開催(栃木県、11/22)
  - 「北陸地区交通安全指導員研修会」開催(福井県、11/20~21)
  - 熊本県高校生交通安全教育 1校実施(熊本県)

この他にも、安全運転普及本部では、様々な活動を実施しています。

## 安全運転教育機器／交通安全教育教材

教育効果を高めるため、各年代に応じた教育機器・教材を開発しています。危険を安全に体験できる二輪・四輪・自転車などの各シミュレーターや、各種交通安全教育教材の開発に力を入れています。

ホンダ 交通安全 検索

http://www.honda.co.jp/safetyinfo/

※各種教材機器・機材に関しては、ホームページで詳しくご紹介しています。

**幼児・小学生**

**あやとりい ひよこ編**  
(幼児～小学校低学年対象)  
イラストやクイズを通して、交通行動の基本やマナーを楽しみながら学ぶことができます。

**あやとりい子ども自転車トレーニングマニュアル**  
(幼児～小学校高学年対象)  
実際に自転車に乗って安全意識を育てる体験型プログラム。安全を楽しく身につけることができます。

**あやとりい**  
(小学3～4年生対象)  
小学校の授業を想定したプログラム。日常生活を題材に、交通安全を自分自身で考え、気づく能力を養う。

**Honda交通安全かるた**  
子どもたちに覚えてほしい交通ルールやマナーを45種類紹介。かるた遊びを通して、「正しい交通行動」が学べる。

**交通安全ゲーム**  
親子で遊びながら楽しく交通安全を身につけられるゲーム。

**中学生・高校生・大学生**

**Honda自転車シミュレーター**  
自転車を運転する際に起こりうる危険を安全に体験することで、危険予測能力や安全意識の向上を図る。  
※小学生～高齢者まですべての世代にご利用いただけます。

**Honda ライディングトレーナー**  
手軽に利用できる二輪車安全運転教育機器として開発。運転診断機能によるアドバイスなど、効果的な安全教育が行える。

**交通状況を鋭く読む～危険予測トレーニング～**  
運転者が路上で出会う危険を予測する能力を高めるためのトレーニング用教材。

**事故事例から学ぶ、自転車の危険走行**  
実際の事故事例をもとに、自転車に乗る際に知っておくべき交通ルールを学ぶことができる。

**中学生・高校生への自転車教育指導マニュアル**  
実際の事故事例をもとに生徒自らが考えることを主とする指導方法などを紹介。45分授業を想定したワークシートや指導マニュアル。

**Honda ライディングシミュレーター／Honda ドライビングシミュレーター**  
二輪・四輪運転中に起こりうる危険場面を、実際に近い運転感覚で安全に体験でき、危険に対する認知や判断、理解を深める。

**Honda セーフティナビ**  
「環境」にやさしいエコドライブと「安全」な運転知識を楽しく学習できる。

**Honda動画KYT**  
集合教育において、実際の交通状況に近い動画を活用し、認知、判断を伴う危険予測能力を高めるトレーニングができる。

**危険予測トレーニング(KYT)**  
動画で再現した交通場面のケーススタディを通じて、「交通センス=危険予測能力」を身につけるためのトレーニング。

**高齢者**

**あやとりい 長寿編**  
高齢者対象の歩行者、自転車用の少人数制プログラム。自身の交通行動を振り返り交通安全に対する気づきを促す。

**交通安全ビデオ講習**  
ビデオに撮影された交通状況を観察して、その感想や意見を交換し、日頃の行動を振り返る。  
(監修:太田博雄・東北工業大学教授)

**シルバー集集大学**  
歩行者・自転車乗車中・自動車乗車中の各場面で、高齢者自身の安全を守るためのポイントをわかりやすく紹介した教材。

**健康ドライブ読本**  
高齢ドライバーの運転に関わる身体機能の変化と、それを補う方法など、運転に役立つ情報を習得できる。

**シニア向け交通安全啓発シート**  
体験型コンテンツやクイズ、間違いない探しなど、参加者と一緒に話し合いながら学習をすすめられる指導者向け教材。

**ホームページで体験・ダウンロード可能な材料等**